

Hand in Hand

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚——それは旅の半ばの一つの出来事。
新たな旅立ちをした女たちはいま手を取り合い、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。
ハンド・イン・ハンドは、生きやすい社会をめざし支えあう女たちの、流木である。

Vol.227

〔娘たちは生きやすくなったか〕

★卒業のシーズンですね。子どもの卒業という節目にはどの親も感慨を深くするものですが、父親不在のひとり親家庭で、稼ぎ手と父親役割まで担ってきた母親としてはその感慨もひとしおでしょう。無認可保育から公立保育まで無我夢中で働किながら育てた保育園を娘が無事終えた時は「大病もせずよく育ってくれた」と私も胸が熱くなりました。毎朝、体温計を測るたびにドキドキしつつも、37度を超えたらって食欲もあって元気なら、保育園に送っていくこともたびたびありました。かなり手荒な子育てをしない限り、暮らしていけなかったからです。母親のそうした気迫が伝わるからか、忙しい時に病気になる子ではありませんでした。

★この春、娘は社会人となります。数年前から一人暮らしをしています。もう仕送りの必要もなくなるし、日々、山積する難問に追われているものの、肩の荷がちょっと降りたよう

な気分があるんでしょうね。「ずいぶん破茶滅茶な生活で、娘も大変だったろうな」と来し方を振り返るようになりました。

★私のまわりは孫の世話に追われている人も、親の介護でたびれきっている人もいます。「孫のために単身赴任中なのよ」と苦笑するAさんは、北陸のある町に夫と住んでいたのですが、子どもの保育園の送迎や夕飯づくりの時間のとれない総合職の娘のために、平日は娘夫婦の東京の家で暮らし、週末、夫の元に戻る生活を1年も続けています。「娘に甘いと批判する人もいるけれど、私自身が妊娠出産と夫の転勤で仕事を続けられなかった。娘の時代にはもっと仕事と子育ての両立ができる社会になっているかと思ったけど全くダメ。せめて娘に悔いを残させたくないから、私でできる支援はしてやりたいの」とAさん。

★少子化が問題視され、ワークライフバランスなんて掛け声だけはカッコいいけれど、長時間労働で出会いのチャンスさえない若者が増えているし、非正規の労働者が増え、結婚や妊娠出産のための安定収入をもてないことや、労働力が不足すると言いつつ若者の失業率が依然として高い状況など、少子化の根本問題はちっとも解決していません。

男女雇用機会均等法は、女性も男性並みに長時間働け、家庭を犠牲にしと作った法律ではなかったはず。30年前、スウェーデンの家具会社の支援を受け北欧を取材して「北欧女性の暮らしとインテリア」という本を出しました。当時すでに、両親の勤務はフレックスタイム制で、交代で子どもを保育所に送り、早退勤務の親が迎えに行き夕食を作り、6時には家族で夕食のテーブルを囲んでいました。30代で庭付きの広い家が持てるよう、家族のための住宅政策も行き届いていました。

★我が国は30年前に合計特殊出生率が人口置換水準を切ったのに、まったく抜本的な政策を打ってきませんでした。それは母子家庭の子どもへの施策一つ見ても、とても「子どもに優しい社会」とはほど遠いことからみとれます。

1979年にニコニコ離婚講座を開いて以来、なぜ離婚が増えるのか、その原因を究明し、社会に警鐘を鳴らしてきたのに、それが全く生きていません。離婚原因と少子化原因はほとんど一致しているのに。

★愚痴を言っても始まらない。私たちが変えていきましょう。子どもや孫たちのために。
(円より子)



画と書：浅野照子

《シリーズ：シングルマザーと仕事》②

「私の体験から ～保険の営業～」

離婚後の仕事探しには、たくさんの困難があるのが現状です。それまで仕事体験がなかったり、小さな子どもを抱えていたり、あるいは熟年離婚のため年齢がハードルになったり……。そんな中で、比較的たくさんの方が就かれるのが、一般的に、保険の外交営業員とか、保険のセールスレディ(生保会社によっていろいろな呼び方がされています)と言われる職種で、正式には「生命保険募集人」と呼ばれる仕事です。年齢や経験は不問なので就きやすい一方、会社との契約関係で歩合によって収入が決まるという厳しさもあります。実際にお仕事をなさっている方の体験談を通じて、その内容、実態、厳しさ、喜びなどに触れていただければと思います。



緊張とストレスも 人生の“メリハリ”と受け止めて 淡々と努力を積み重ね、くよくよ考えすぎない毎日を

S.Mさん(神奈川県・57歳・生命保険募集人)のケース

●専業主婦歴20年 50歳を越えての仕事探し体験

「生命保険募集人」の仕事を始めて5年数ヶ月になります。結婚前に数年間の会社勤務の経験があるとはいえ、ほぼ20年近く専業主婦として過ごした後の就労ですから、学ぶことの多い毎日で、目からウロコが落ちるようなことにもたくさん出会います。でも、社会のシステムも、人間の感情も、この仕事を通じて、やっとわかってきたように感じています。夫婦という単位でいることは世間には通りがよいですし、夫がいると自分ひとりで最終決定を下さなくてすみますから、すべてが“楽”に過ごせていたんですね。いまは確かに苦労が多く、緊張の連続で、ストレスだらけの日々と言えます。でも、毎日がスリリングで変化に富み、それもまた楽しいと思えるようになりました。

※

夫は8年前、娘が中学生のときに突然家を出て、別の女性のもとへ行きました。私にとっては青天の霹靂で、一時はパニック状態でしたが、離婚が成立するまでの約3年間は生活費を振り込んでくれて、「自分が全面的に悪いのだから」と、わずかですが預貯金はすべて残してくれたのが、せめてもの救いでした。離婚成立直後に振り込まれた慰謝料は約束の3分の1程度で、娘の養育費も含め、その後、現在までに

支払われたのは約束の7～8割弱。自営業ですから、サラリーマンのように給料を差し押さえることもできず、残りはそのままの状態になっています。元夫に対して恨みつらみがないわけではありません。でも、それなりに楽しい時間を共有したこともあるのも思い、今後、未払い分をどうするかは考慮中です。甘いと言われる方もいらっしゃると思いますが、これも性分ですから、しかたありません。

夫が家を出た直後は、どうしてよいかわからずに、しばらくボンヤリと過ごしていました。当時はまだ生活費が振り込まれていましたから、私に逼迫感はありませんでしたが、周囲の方々が心配して「とにかく働きなさい」と背中を押された形で、離婚調停中から求人広告やハローワークの情報を元に、手探りで仕事探し始めました。でも、当時すでに50歳の声を聞き、資格も経験もない専業主婦だったわけですから、なかなか仕事が見つかるはずありません。

一番大きな壁は「年齢制限」。パートなら、なんとか就ける仕事はあっても、正社員となるとまず無理です。試験や面接はそれなりに受けさせてはくれますが、連戦連敗でした。週に2、3日、数時間ずつ、通信販売コールセンターのオペレーターのアルバイトをしながら仕事探しをしているときに、娘の同級生のお母さんが「時間があるなら、やってみない？」と声をかけてくださったのが、いまの生保営業の仕事。彼女は大手の保険会社の管理職でした。

●「生命保険募集人」への道と 仕事内容をお話しましょう

「生命保険募集人」になるためには、保険業法に基づいて試験を受け、登録をしなければ営業活動を行うことができません。会社や年代によって多少システムは違うかもしれませんが、当時、私は試験を受けるための研修を2ヶ月間近く受けました。その間、交通費や日当、お弁当も出ましたから、お小遣いをもらいながら勉強ができるといった感覚で、嬉しかったのを覚えています。(※1)

専門用語がたくさんあるので最初は面食らいますが、まじめに研修を受けさえすれば、ほとんどの人が試験に合格するようです。その後、営業活動が始めるわけですが、私が勤務する会社の場合は、2年間はヒヨコとして指導員がつき、独り立ちできるようにサポートしてくれました。ついた指導員の能力や相性によって多少は明暗が分かれるところもありますが、結局は個人の地道な努力によるものが大きい仕事ですね。その後も、常にステップアップのための研修や試験が用意されていて、最終的にはファイナンシャル・プランナー(※2)を目指せるようになっていきますので、会社の費用で勉強ができると思えばよいシステムです。人生のバックグラウンドである社会のあり方が変われば人間の生活も変わり、必要な保険の形態も変わるわけですから、常に勉強が必要な仕事であるということもできます。

収入は、固定給＋歩合給です。取れた契約件数や収益額で1年ごとに査定されて固定給のランクが決まり、それに月々の働きに応じた歩合給が加算されます。まじめに働いても、契約が取れなければ収入は減り、安定性はありません。ノルマはありませんが、目標設定

はあり、それが達成できなくてもクビになることはありませんが、営業所単位での成績を求められます。毎月、契約を取り続けて、それを一年間積み上げていくという緊張の連続を強いられる仕事です。

立場はあくまでも「個人事業主」ですから、営業にかかる経費(電話代や顧客のところへ出向く交通費、手土産代など)はすべて自腹で、給料がすべて収入になるわけではありません。毎年、自分で確定申告をします。ただし、会社への通勤定期代やボーナスは支給されますし、大手の会社は有給休暇や福利厚生などはかなり充実していて厚生年金や失業保険にも加入でき、有給休暇もありますから、優遇されていると言えるかもしれません。

女性が9割を超える職場ですから、それなりに人間関係はたいへんですが、みなさん先輩でこの道のエキスパートなのだと思います。素直に接することができます。私の場合、仕事体験が初めてに近かったぶん、会社側や先輩の指導に素直になる事ができたことが、この仕事を続けられたことにつながったのかもしれませんが。小さなお子さんがいらっしゃる方も、比較的、時間が自由に使えますし、同じような苦勞をされてきた諸先輩の体験にも支えられて、長続きすることが多いようです。嫌な思いをすることは確かに多く、短期間で辞めていく人はたくさんいます。続けるには、うまくいなくてもくよくよ考えすぎないことが大事かもしれませんね。

●お客様の人生に関わる仕事です 苦勞と喜びは、こんなところに

このお仕事をしていると、お客様の人生に関わらざるをえない局面に出会うこともたくさんあります。一番、記憶に残っているのは、50歳代のある離婚女性の

※1「生命保険募集人」

生命保険契約の募集、集金、アフターサービスを行います。「保障」という目に見えない商品を扱い、比較的長期間にわたる支払いも生じるため、契約期間中の顧客の状況変化に応じた適切なアドバイスと解決の手伝いをできる能力や、幅広い生命保険全般に関する専門的知識も必要になります。

そのため、生命保険募集人になるためには、生保業界が統一的に実施している共通の初期教育で所定の研修を受け、「一般課程試験」に試験に合格した後に金融庁に登録することが必要です。

教育期間中は生保会社とは委任契約の関係となり、所定の固定給のみが支払われます。生命保険募集人としての登録を終え、セールス活動が始まると、販売活動の実績に応じた比例給が加算され、雇用契約となります。

生保業界共通の教育体系は、初期教育とそれに続く高質化教育のステップが定められており、専門課程、応用過程、生命保険大学課程へとステップアップを目指し、資格や活動実績に応じて給与や地位も変動して行きます。

近年の規制緩和によって外資系保険会社が各種メディアを使って保険のダイレクト販売を始めたり、セキュリティの強化などによって地域密着型の従来の営業手法が難しくなってきたこともあり、今後、変化の激しい業界での仕事と言えます。

※2「ファイナンシャル・プランナー」

個人の資産運用に関する専門家で、税金・不動産・相続・金融商品・社会保障・生命保険や損害保険など、個人を取巻くお金に関するトータルな知識で個人の資産設計をサポートします。



こと。私の担当地区にお住まいの弊社生保に加入なさっているお客様で、担当のご挨拶に伺ったときに、ご自身の身の上話をされたのです。そのお話の内容や、四畳半一間の質素なお住まいなどからも推察して、なるべく月々のご負担が少ない方がよいだろうという私の思い込みから、通常ならご提案させていただくガン特約などの追加加入をお薦めしないままにしていました。ところがその後、ガンを患われて長期の入院治療が必要になり、ご存知のように高額の治療費がかかりますから、「あの時、お薦めしておけばよかった」と後悔することになりました。「自分の思い込みでものごとを進めてはいけない」ということが教訓として、心にしっかりと刻まれたケースでした。

商品を選ぶのはお客様なのだから、こちらはすべてのメニューを提示した上で、お客様がご自分の事情の範囲で判断・決断をなされればいいことだ。人生にはいつ何が起こるか分からないし、保険が役立つ場面がある。それを肝に銘じ、自分の仕事の意味を再確認できたときから、相手の方にどんなにいやな顔をされても、様々なケースをふまえた商品のセールス・トークが徐々にできるようになってきました。(まだ、ときどき及び腰になるときもあります…) 生死に関わることだからこそ、時にはビジネスライクにご提案したり、話しを進めなければならないことがある、と感じた出来事でした。

たまには「保険のおばちゃん」とバカにされることもあります。契約者の方に心から感謝されることもあり、それがこの仕事の喜びです。たとえば、健康上の問題を抱えていらして、保険が必要で入りたいのになかなか入れない方がいらっしゃるのですが、加入できる商品を選び、手続きに時間と労力をかけて、やっと加入契約が成立したときなどは、一

緒に手を取り合って喜んだりもします。私は勤続年数も少なく優秀な営業員ではないので年収300万円前後をさまよっていますが、長く勤めて努力し続け、成績を上げていらっしゃる方には一千万円をはるかに越える年収の方もいらっしゃいますし、退職金や年金もきちんと出ます。日々、小さな努力の積み重ねが必要です。生き残るのはたいへんな世界ですが、苦労が多いぶん、ご褒美も用意されていると言えますよね。

※

この春、娘が大学を卒業します。一区切りがつかますし、私自身もずっと勉強してみたいテーマがあって、3年後の60歳をめどにこの仕事を辞めようと考えています。62歳から年金がいただけますが、額は少なく、生活はさらに厳しくなると思います。でも、お金がない葛藤よりも、やりたいことに集中できない葛藤の方が大きいんです。あとは細々と、掃除婦のパートでも何でも働けるところで働きながら、好きな本を読んだり、勉強をしたいと思っています。

娘は、学生の間はアルバイトで二人の生活の一部を支えてくれていましたし、先日も書いた作品が賞をいただいたりして、着実に自分の人生を歩み始めているようですので、心配はしていません。しばらくは二人で肩を寄せ合っている生活が続くのでしょうか、その後のことはどうなるでしょうね。確かに不安定な生活ではありますが、実はこのよさも捨てがたく、すべては自己責任で決めていく緊張感もまた、人生の醍醐味と言えるでしょう。専業主婦時代には感じなかった“メリハリ”が日々あり、仕事をして人に喜んでいただけては自分も喜び、イヤなことがあってもお酒を飲んでフウツと吹き飛ばし、週末は趣味のダンスに熱中する、そんな生活を楽しんでいます。

「シングルマザーと仕事」について、体験談、ご意見、悩み、情報を事務局までぜひ、お寄せください。

4・19 養育費の日キャンペーンイベント

「パパに聞きたいこと」

大人世代(親)の責任の全うを養育費問題から考える

養育費の未払い問題を当事者だけの問題ではなく、子育てにおける「親としての責任」の問題としてとらえ、2割しか支払いがされていない現状を多くの人が問題視して大人としての責任を考えていけるよう訴えるイベントで、ハンドの会も後援しています。

養育費を受けられない現状、払っている親の意見、払っているのに離婚後に子どもに会えない親の声など、当事者の声を聞けるほか、こんのひとみ(ミュージシャン)さんによるミニライブもあります。

【開催日】4月18日(火)

18:00~20:00(開場17:00)

【会場】東京ウイメンズプラザ 大ホール

【参加費】ウイंक会員:500円/一般:中学生以上1000円

【主催】NPO法人ウイंक(<http://www.npo-wink.org/>)

【後援】厚生労働省、ハンド・イン・ハンドの会、ファザーズウェブサイト(離婚後に子どもに会えない親の会)、他

【助成・協賛】独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金助成事業



年金

「熟年離婚」 2つの催し

110番

昨年の離婚件数は、推計26万2,000件。2分毎に1組の夫婦が離婚しています。しかも結婚年数20年以上のいわゆる「熟年離婚」が、1980年には7.7%に過ぎなかったのが、2004年には16.3%と2倍以上に増えました。

20年以上連れ添ってきた夫婦が、なぜ離婚を選ぶのでしょうか？

ハンドの会は、離婚や夫婦の問題に関する電話相談「離婚110番」を20年以上行ってきましたが、このた

び、熟年夫婦の抱える悩みや問題について相談を受けるため、特設の電話相談「熟年離婚110番」を開設します。

また、「来年の4月以降に離婚したら、夫の年金の半部分が元妻にも貰えるようになるそうね。どうせ離婚するなら、あと1年、我慢をするわ」という声を聞きます。これを踏まえて、2002年にはピークの28万9,836件だった離婚件数は、その後、少しずつ減ってきています。多くの妻が、

来春から年金分割できるようになるのを心待ちにしていると言われるのです。

2007年からの年金制度はどのように変わるのか。ほんとうに夫から年金を分けてもらえるのか。不安を抱え、情報を得たいと思う女性たちが大勢いることでしょう。

そこで、変わる年金制度について公開講座を下記の通り行います。

いずれも、ご活用、ご参加ください。

公開講座「熟年離婚と年金」

◎日 時：3月21日(火・祝) 13:30～16:00

第1部「熟年離婚と変わる年金制度について」

講師／袖井孝子氏(お茶の水女子大学名誉教授)

第2部「離婚前後の精神的ストレスとそのケアについて」

講師／吉川武彦氏(精神科医、中部学院大学教授)

◎会 場：千代田区麹町区民館B1F 集会室AB(麹町小学校隣り)

◎参加費：2,000円(ハンド会員は1,000円)

特設電話相談「熟年離婚110番」

3月25日(土) 13:00～20:00

TEL：03-3261-1835

※電話は4台開設して行います。

※日程、番号をお間違えないようにご注意ください。



いずれも主催は、ハンド・イン・ハンド・の会。TEL.03-3261-1835 nojiri@kazoku-mondai.co.jp

弁護士110番

深刻な「言葉の暴力」

Q

40歳の専業主婦です。5年前に4歳年上の夫と、お互いに再婚同志で一緒になりました。私の連れ子で11歳になる息子と、夫との間に4歳の娘がいます。結婚後、夫からの言葉の暴力がひどく、私のみならず息子に対してもエスカレートする一方。教育委員会や裁判所にも相談しましたが、精神的暴力では保護命令を出せないと言われました。今は、1ヶ月前から借家に隠れ住んでいます。夫が学校に度々捜しに来るので、息子を通学させることができません。夫は毎日、帰ってきて欲しいとメールしますが、私はすでに精神的にボロボロで、3年間カウンセリングに通っている状況です。子どもたちも父親を怖がっており、私は強く離婚を望んでいます。もうすぐ調停の日時が迫っているのですが、顔を会わせるのが怖いのです。

A

言葉の暴力が繰り返され、取るに足りない存在だと思われ、自尊心が低下し、時には抑うつ状態などの精神的症状に陥ることもあります。相談者の方も、被害は深刻だと思われます。「配偶者からの暴力の防止等に関する法律」では、「身体的暴力に準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動」(いわゆる精神的暴力)も「配



《回答者》
弁護士 段林和江

☎06-6364-0269

偶者からの暴力」に含めており、「被害者」は、配偶者暴力支援センターによる支援などを受けることができます。保護命令を受けることができるのは身体的暴力に限られていますが、例外的に、精神的暴力によつて、精神疾患などの病気を発症していると診断された場合には、「傷害」を引き起こした言動にあたるものとして、保護命令が認められる場合もあります。また、実際にはその事例は少なく、相談者の場合も、保護命令が認められる可能性は微妙でしょう。

調停で相手を見るだけでも怖いのでは、思ったことも言えず、調停が二次被害の場になることもあります。ですので、相手と顔を合わせなくてもすむように、時間をずらしてもらったり、別室での調停を希望するなど、家庭裁判所に配慮を求めることが必要でしょう。裁判所は、身体的暴力以外でもそのような配慮をしてくれまうので、遠慮なく事情を説明して事前に要望されるとよいです。

学校に子どもさんを捜しにくることを有効に防ぐ手段はなかなか難しいです。法的には、子どもへの接近を禁止する仮処分申立人などが考えられますが、保護命令と異なり、強制力がないなどの難点があります。調停の機会に学校へ行かないように説得してもらうのも一つの方法です。

《家計簿公開》

理想の父親像への幻想を断ち切りがたかった。
でも 納得いく別れ方ができ、今は前向きに。

第157号 埼玉県 Y・Yさん

〔家族構成〕

私 44才(会社員)

息子 15歳(中学3年生)



《家計簿内訳・2006年1月分》

★収入★

給料(手取り) 217,237円
児童扶養手当(1ヵ月分) 13,780円

合計 231,017円

★支出★

食費 55,000円
駐車場代 15,000円
通信費 15,000円
光熱費 20,000円
衣服費 10,000円
交際費 10,000円
教育費 100,000円
息子の小遣い 2,000円
教養費(新聞代と本代) 5,000円
保険 3,000円
雑費 10,000円

合計 245,000円

1F



2F



3F



●今月の支出は特別です

今の会社に正社員として入って3年近くになり、「収入」は毎月だいたいこのくらい。決算期の3月には、残業が増える代わりに手取りも増えます。

「支出」は、今月はかなり特別です。息子が高校受験で、冬期講習4万円と受験料3万円が、いつもの教育費にプラスされています。嬉しいことに、希望した公立高校へ合格しましたから、4月からは毎月3万円程度になる予定。しばらくは部活に専念したいようで、塾の費用もかからなくなります。

通信費ではインターネット代8,000円が大きい。私は家ではほとんど使いませんし、息子が入学祝いで携帯を持つので(通信料は毎月6,500円まで認めました)、解約しようと思います。光熱費には、この冬は灯油代の4,000円が含まれています。

衣服費は、息子も何かと欲しがる年頃になってきているため、冬のバーゲンを活用しました。

交際費は月に一度、友だちと飲みに行きストレス解消する費用で、今月はお正月だったため予算オーバー。いつもは5,000円ほどで、これが私の小遣いにあたります。息子の小遣いは4月からは5,000円に決まりました。

保険は県民共済で(私2,000円、息子1,000円)、来月から息子の掛金を1,000円アップします。

雑費は日用品の他、息子のおしゃれ(ヘアケア用品、にきび薬)にかかるもの。身だしなみが気になる年頃です。ある程度は仕方ないのかな。

忘れてならないのは、もう1人の息子(?)の存在。人間の息子が2年半前に拾ったオスの白黒ブチ猫で、この猫との毎日の晩酌が私の楽しみです。雑費の一部は猫の缶詰とトイレ砂代。食費がかかりすぎと反省しつつも、2人の晩酌用のお刺身は省けません(笑)。

●離婚過程を振り返ると……

今月は「赤字」で、貯蓄からの持ち出しになりました。通常月は4万円程度は貯蓄にまわしています。息子は大学進学を希望しているので、まだまだ教育費がかかりますものね。

家は父方の祖母の家で、父が亡く

なった後、母と私の共同名義になっていて、家賃がかからないので助かります。でも、いずれ必要になる補修費用は貯めておかなければ。母は72歳で、車で20分のところに住んでいますが、長年、看護婦をやってきて、いまもヘルパーとして元気に働いています。元気で近くにいるだけで心強い存在です。

夫が家を出て行って9年と少し、正式に離婚してからは5年近くが過ぎました。これまでは辛くて冷静に振返ることができなかったのですが、『家計簿公開』をきっかけに、離婚の経緯を整理しておこうと考えました。息子がこの3月で義務教育を終えて少しホッとしたことありますが、なにより自分のために、どこかできちんと見つめ直しておきたいという思いがずっとありましたから。息子がもう少し成長したら、離婚した事情と私の気持ちを知って欲しいとも思っています。

※

1984年、お互い18歳の社会人1年目で知り合い、6年間交際をして、89年に24歳で結婚しました。それぞれ大手企業に勤めていたもので、しばらくは共働きしようと思っていましたが、彼が強く子どもを望んで、私も同意。すぐに恵まれて、翌90年に出産しました。9ヶ月になるまで働いていましたが、会社側が人員削減をしたがっていた時期でもあり、出産後の職場復帰はあきらめざるを得ませんでした。

結婚前から、彼が大酒飲みなのは知っていました。会社近くの行きつけの飲み屋に仲間と毎晩通い、酔い潰れてそのまま寝てしまう。夜勤があるので会社内に宿泊施設があり、自分のアパートには週に何度しか帰っていませんでした。結婚前には「お酒を飲んでも家に帰ってきてね」と約束しました。家庭ができたなら帰ってくると、たかをくくっていたのかもしれない。

彼は人当たりと人付き合いがよく、優しくて文句も悪口も言いませんから、周りからは好かれていました。結婚前は、それが魅力だったんですね。反面、意志が弱く、人に干渉しないかわりに干渉されることを嫌う、そんな面には気づきもしなかった。寡黙イコール誠実だなんて、勘違いしていました。

結婚後も、最初から週に一度は遊びで外泊。でも夜勤日以外は遅いながらも帰宅していましたから、彼なりに頑張っていたのかも。半分あきらめていたし、きちんと生活費は入れていたので、子どもを可愛いと思ってくれさえすればいいかな、と思っていました。世間知らずだったんですね。

最初のショックは94年の秋、息子が4歳のとき。突然30万円の借金明細が届き、調べたら社内預金がなくなっていて、彼を追及すると、お酒だけでなく連日のパチンコでお金を使っていたとわかり、驚きました。でもその時は話し合っ、借金は定期預金から返済して生活をやり直そうという事になったんです。いま振返れば、私が一人でそう話をまとめたのかも。彼は反論も意見も言いませんでしたから。

その1年後には『財形貯蓄には手をつけていない』というのも嘘だとわかり、彼は調べた私に逆切れ。それでも生活費は入れ続けてくれていたので、うるさく騒ぎ立てなければいいのかとも思いました。ただ、いつも不在で、家族として生活していない状況に我慢できなくなりつつありましたし、家にサラ金から取り立ての電話がかかって来るようになり、新たに借金を作っている様子なのも心配。パチンコをやめられない『パチンコ依存症』なのかと、私ばかりが焦る毎日でした。

その間、叔父と仲人には相談していましたが、「いい人だから様子をみていれば」と言われ続けました。傍目から見れば、ほんとうにいい人なんです。あいかわらず私も離婚を考えておらず、96年春、円満調停を家裁に申し込み、外泊をやめて欲しい事と、借金を今後どうするのかを話し合いました。

彼は「離婚はしたくない、妻を嫌いではない、子どもは可愛い、外泊はやめる、借金は親から借りて返済する」と繰り返すばかり。調停委員には「あなたの口が立ち過ぎる。いちいちうるさく言い過ぎるのでは？」と言われ、精神的に追い詰められました。調停中の4ヶ月間も、彼が帰宅するのは週末のみで会話はなし。なのに私は調停委員に説教され、なだめられて調停を取り下げたのです。でも結局1ヵ月後に「好きなようにさせてくれ、気が済んだら戻ってくるから」と家を出て行きました。96年11月のことでした。

この時、私は正直、安堵したのです。別居すれば彼の言動に一喜一憂しな

いで済むし、月2度、子どもに会いに来てくれさえすればいい、と。理想の結婚に破れた私は、理想の別居を夢見たのですね。離れて暮らしても、父は子を可愛いがるものだ、と無条件に思い込んでいました。

半年後の97年春、息子は小学校入学。翌年の春、3回だけ息子に会いにきましたが、「今度、プールに行こうな」という言葉を最後に、それきり糸の切れた凧のように連絡なしとなって、夏には生活費も止まりました。

●目からウロコが落ちた瞬間

実は、彼が家を出た時、会社の女性と付き合っていたんです。私はその女性を呼び出して、対峙もしました。長くは続かなかったようですが、それまでパチンコが原因で彼が帰宅しないということ、「お前が悪いのでは？」と私を責めることもあった母や周囲の人も、女性の存在を知るとすんなり納得してくれ、なんだかホッとしたものです。

97年秋、離婚調停と生活費分担請求を申し立て。半年後に月10万円の生活費を分担する旨、調書を取り付けました。でも99年1月からは振込みがストップし、催促してもノラリクワリの生返事。彼の実家から「生活費は払えないから早く別れて」とも言われました。

怒りと落胆。子どもは愛してくれると信じていたので、現実を受け入れるのに時間がかかり、辛かった。カウンセリングを受けながら、「借金しないで、子どもを捨てないで」と私の気持ちを訴えることはできても、それを受け入れるか否かは彼次第なんだ、と徐々に理解できるようになっていきました。

宇宙人と話しているかのように噛み合わない彼との会話。「親が慰謝料を出してくれないからしかたない」と怒鳴られた時、一流企業に勤めて収入もあるのに、自分でお金を出してまでは別れたくない、別れなくていいから金を要求するな、息子の事はすべてお前が何とかしろ、という彼の本音がわかり、「なんとくだらない男だ」と目から分厚いウロコが取れました。この時、潮が引くように決別できたんです。

彼が出て行っからでも社宅に居続けていましたが、それを機に、今の家に引っ越しました。2000年春、転居と同時に、溜まった生活費を差し押さえ。まだ離婚していなかったのに、妻が夫の給料を差し押さえる形をとりまし

た。実際、差し押さえた約160万円が振り込まれたのは翌年春のことで、まる1年かかりましたけれど。その間は派遣やパートで働き、年収は110万円ぐらい。生活はきつかったですね。

給料を差し押さえられてから、それまで呑気だった彼も慌てふためいて泣きついて来ましたが取り合いませんでした。サラ金や同僚からの借金が膨らんで、2000年暮れには会社も追われたようです。その後会うこともなく、郵便でやり取りして、01年秋に離婚届を提出、もう連絡もとっていません。彼は家を出てから一度も息子の事を気にしませんでした。なぜ息子が父親から捨てられたのか、それが悔しくて、一生恨むと決めたこともありました。離婚した頃は人の言葉に深く傷付いたりもしましたが、月日がたつて恨みは薄れ、立ち直ってきています。

『パチンコ依存』から立ち直らせるのが私の任務と思い込んで、躍起になったのが彼には重かったのでしょうか。浮浪者に憧れていましたから、今はそうなっているかもしれませんが、人並みに息子に会いたくて泣いている日もあるのかな、と時折、思ってしまうのは、私の感傷にすぎないのでしょうか。

●息子の成長で 一区切りが

信じていたものが崩れることを受け入れるのは、ほんとうに時間がかかります。辛くて爆発することもありましたが、納得いく別れ方をしたからこそ、その後、前向きにできました。

息子が頑張って公立高校に受かってくれ、一区切りついた気がしています。一人でもなんとか頑張って育てたぞい！と、近々記念写真を撮りに行くつもり。息子は嫌がるでしょうが、写真は老後の楽しみにするつもりです。

こんな10年を送ってきました。恥ずかしいけれど、自分に嘘が無いので胸を張っていられます。私がハンドの会でパワーをいただいたように、この体験談が少しでも悩んでいらっしゃる方のお役に立てばと思います。

★合格おめでとう。息子さんの成長と共に前へ踏み出せたのね。痛みが癒されるのには時間がかかるけれど、そのぶん強くもなれるもの。そのパワーをみなさんに分けて差し上げて。毎月の貯蓄のうち、わずかでよいのでご自分の将来への投資のために振り分けておきたいですね。（円より子）



